

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
災害心理学 Disaster Psychology		1年・2年	後期	別途、授業時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
心理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
小竹仁美	講義棟3階	水・木・金（授業と学生相談の時間を除く）	授業中に指示します	
授業の概要				
日本は災害多発国であり、いっどこで災害が発生するかわからない。災害時の混乱に対処し、被害を最小限に抑えるためには災害時の人間の心理や行動の特徴を知っておくことが大切である。本講義では、予測困難な自然災害や事故などの災害に遭った時の人間の心理と行動の特徴や、災害体験による心理的变化の特徴、また、災害時にどのような行動をとるべきか、どのような支援ができるかを学習する。				
授業の到達目標				
①災害時の人間の行動と心理の特徴を知ることができるようにする。 ②災害体験による人間の心理的变化について理解することができるようにする ③災害体験後のストレス障害の実態を知り、その支援方法について考えることができるようにする				
授業の方法				
主に講義形式				
学習の成果				
この授業に参加すると、①災害時の人間の行動と心理の特徴を知ることができる。 ②災害体験によって人間の心理がどのように変化するかを理解することができる。 ③災害体験後に予想されるストレス障害の実態を知り、その支援の在り方を考えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス ： 授業の概要や目標の説明、成績評価や受講上のルールの説明、心理学の諸領域			
第2回目	平時の人間行動と災害時の人間行動			
第3回目	避難行動を左右するもの、環境を判断する要因			
第4回目	コミュニケーションと災害時の情報伝達			
第5回目	パニック行動を起こす心理、自己コントロール			
第6回目	災害と経済			

第7回目	1回から6回までの振り返り、復習のための小テスト	
第8回目	災害と記憶、記憶のメカニズム	
第9回目	災害体験による心理的变化、身体反応と感情	
第10回目	ストレス障害、ストレスの種類と症状	
第11回目	子どもや高齢者の心理、災害弱者	
第12回目	災害と援助行動、社会性、人間関係	
第13回目	支援者のストレス、支援者支援	
第14回目	災害時の心理的支援	
第15回目	全体のまとめと復習、期末試験	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	被災者の立場を理解しようと努め、授業に参加しているかどうかを評価する。
レポート	30%	毎回の授業の最後にテーマを与えて小レポートを課す。
調査報告書		
小テスト	20%	授業の前半領域についての理解度を測定するために小テストを実施する。
中間・学期末試験	30%	授業内容全体の理解度を測定するために実施する。S評価は、授業参加態度、レポート、小テスト、期末試験の総得点が9割以上とする。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。		
履修上の心得・ルール		
長期の避難生活を送っている方たちの心理を、当事者の立場にたって理解するよう努めることを期待する。		